

| | | | | |
|----------|------------|-----|---------|-------|
| 授業科目名・形態 | ソーシャルワーク論Ⅴ | 講義 | 必修・選択の別 | 選択 |
| 担当者氏名 | 脇山園恵 | 開講期 | 3年 前期 | 単位数 2 |

【授業の主題】

ソーシャルワーカーは社会の中で生きる個人を支援している。ソーシャルワーカーが支援する対象は個人であり、地域社会でもある。本講では、個人を取り巻く集団及び社会資源を活用した相談援助の展開及びその技術について学習する。

【到達目標】

- 1) 集団を活用したソーシャルワークの基本について、社会資源活用のための視点、技術と方法から理解できる。
- 2) さまざまな技術や方法を駆使したソーシャルワーク実践の実際について、具体的な事例に基づいて理解できる。

【授業計画・内容】

- 第 1回 オリエンテーション
- 第 2回 相談援助における対象の理解
- 第 3回 相談援助のためのアウトリーチの技術
- 第 4回 ケースマネジメント（ケアマネジメント）①
- 第 5回 ケースマネジメント（ケアマネジメント）②
- 第 6回 グループを活用した相談援助①（グループワークの意義と展開過程）
- 第 7回 グループを活用した相談援助②（自助グループ／サポートグループ／結成への支援と連携）
- 第 8回 コーディネーションとネットワーク①（コーディネート）
- 第 9回 コーディネーションとネットワーク②（ネットワーク）
- 第 10回 相談援助における社会資源の活用・調整・開発①（意義と目的／調整・開発の方法と留意点）
- 第 11回 相談援助における社会資源の活用・調整・開発②（ソーシャルアクション）
- 第 12回 スーパービジョンとコンサルテーションの技術①（スーパービジョン）
- 第 13回 スーパービジョンとコンサルテーションの技術②（コンサルテーション）
- 第 14回 ケースカンファレンスの技術①（ケースカンファレンスの意義と目的／運営と展開過程）
- 第 15回 ケースカンファレンスの技術②（ケースカンファレンスの実際／評価と普遍化）

【授業実施方法】 基本的には講義形式で行う。

【授業準備】

教科書を事前に確認し、わからない語句などは専門書や辞典などで調べておくこと。日頃から新聞などで報じられる社会福祉に関する問題に関心を持ち、それらの問題と地域社会との関係について確認すること。

【教科書等】

- ・社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 7 相談援助の理論と方法Ⅰ 第3版』中央法規出版。
- ・社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 8 相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版』中央法規出版。

【参考文献】

- ・佐藤信人『ケアプラン作成の基本的考え方』中央法規出版。
- ・生活アセスメント研究会『福祉・介護に求められる生活アセスメント』中央法規出版。 など

【成績評価方法】

平常点 10%、中間レポート 40%、期末試験（筆記） 50%で評価する。60%以上の得点を合格とする。

【主な関連する科目】

高齢者福祉論Ⅰ・Ⅱ、地域福祉論Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワーク論Ⅱ～Ⅵ、ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅴなど

【学生へのメッセージ】

各関係者がどのような取り組みを展開しているか、社会的な関心を持ちながら予習・復習をし、地域生活を支えるための社会資源について学びを深めてください。